

「磐梯高原の地形 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

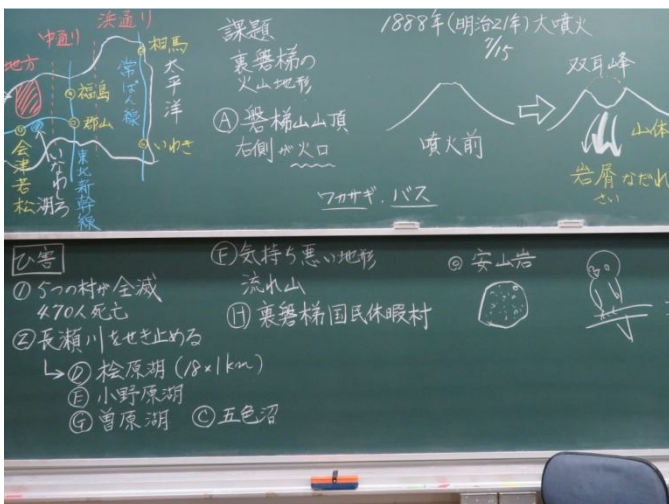
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

最初に、林間学校の行先である「福島県」の概要について説明した。ただ漫然と行くのではなく、どこまで新幹線に乗り、どこまでバスで行くのか、ぐらいは知っておいたほうが良いと思った。



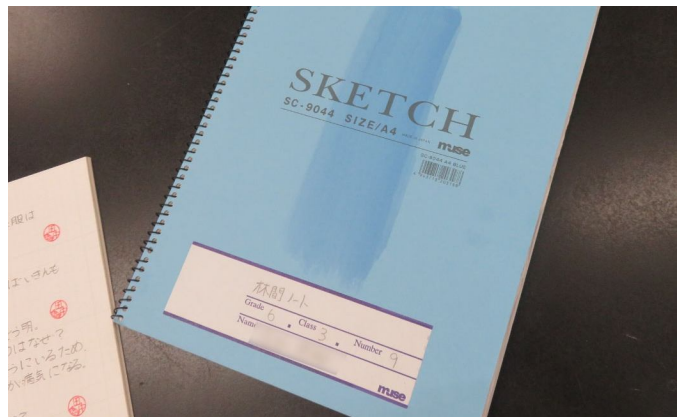
福島県の略図を板書し、東から「浜通り・中通り・会津地方」という独特の地域名がついていること、磐梯高原(裏磐梯)は「会津地方」の北部に位置することなどを説明した。主な鉄道路線と主要都市名も加えておいた。ここまでは社会科(地理)の授業に近い。



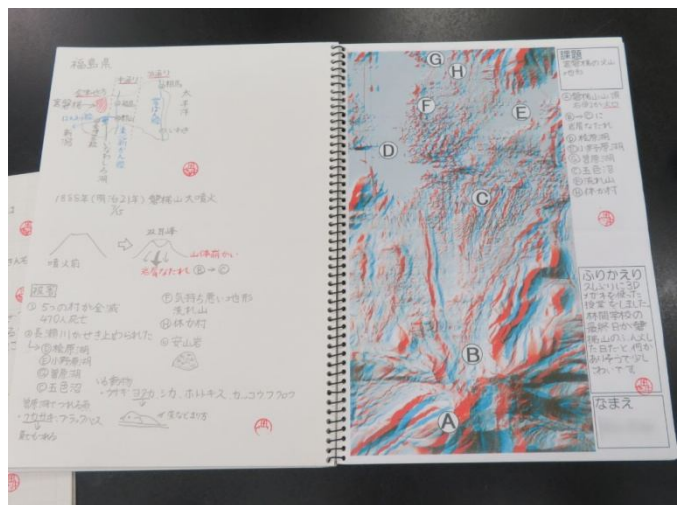
これは、あるクラスの板書である。一番重要なのは磐梯山北麓に広がる磐梯高原(裏磐梯)は、1888年(明治21年)の磐梯山大噴火に伴う、山体崩壊の岩屑流の堆積によって形成された地形ということだ。その地形を「アナグリフ」(立体視)で実感させたい。



アナグリフによる立体視は、専用のメガネをつけて、アナグリフ地形図を見るだけで、特別な技能はなくても地形が立体的に見える。両目と地形図はできるだけ離れたほうが、立体感が強く見える。



地図と記録(ふり返し)は、子どもたちが1冊ずつ持っている「林間学校ノート」に貼らせることにした。これでメガネと一緒に、林間学校に持参できる。このスケッチブックは水彩画にも使える高級品だ。



板書の記録、ふり返しなども、すべて林間学校ノートに書かせた。これで林間学校中に磐梯山が見えれば、明治の大噴火の事実を実感できるかも知れない。